

今後は医学部の募集定員が減少 ここ数年は医学部合格の最大のチャンス

富士学院 学院長 坂本 友寛



受験者が年々減少し 合格しやすい状況に

医学部を目指す受験生の数は、年々減少しています。2022年度も例外ではありません。特に前年度は、コロナ禍がピークのときに入試が行われたため、感染者の多い東京など都市部での受験を控える受験生が多かった関係で、医学部医学科の受験者数は、国公立大学・私立大学ともに減少し、特に私立では大幅に減少しました。

2022年度入試では、前年度に比べ東京受験を再開する受験生が多いため、

ある程度志願者や受験者が増えるのではないかと予測していましたが、実際には減少傾向に歯止めはかかりませんでした。

私立大学の医学部医学科から見えていきましょう。一般選抜および共通テスト利用選抜を合わせた志願者数は9万269人で、前年度より954人減少しており、受験者数は前年度より1338人少ない8万2816人に留まりました。2022年度は、獨協医科大学と金沢医科大学がそれぞれ受験日を1日増やしています。私立大学の場合は、志願者数・受験者数ともにのべ人数でカウントしており、加え

て受験日が昨年よりも2日間も増え、さらには東京や都市部への受験が復活したにも関わらず、これだけ受験生が減少しているのが現実です。

一方、国公立大学の医学部医学科の場合は、前期・後期合わせた志願者数は、2万2340人で前年度より457人増えたものの、受験者数は、前年度より442人少ない1万3220人に減っており、国公立大学、私立大学ともに、実質競争倍率は今年度も減少し、年々減少し続けています。

また今年度入試の特徴として医学部に合格できなかった受験生が浪人をせず、他学部に進学したケースが多くありました。これは、コロナ禍やウクライナ情勢などの先が見えない社会情勢への不安というものも要因のひとつだと考えられます。こうした浪人回避の動きは、今後ますます医学部受験生の減少につながっていくことになります。

募集定員が維持される 来年再来年はチャンス

このような状況を見ると、2023年度入試でも、志願者・受験者数はさら

に減少していくと考えられます。来年度の受験生は、今年度以上に大きなチャンスがあると思っています。

また今後の医学部定員に関する動きも、視野に入れる必要があります。厚生労働省と文部科学省の分科会「医療従事者の需給に関する検討会」で、医学部定員について人口減少を見据えた議論が交わされています。最終決定はしていないものの、おそらく今後は募集定員が減ることが予想されます。2024年度までは大きく定員が削減されることはないと思われますが、2025年度以降は、入学定員を絞り込む可能性があります。そうすると、全体の募集定員が減り、競争率・難易度ともに再び上昇に転じることになります。

こうしたことから、医学部受験生にとって、来年・再来年の入試が、ここ数十年で最も合格しやすい入試ということになってきます。まさにこの1〜2年のがんばりは、医師になれるか、医師ではない道に進まざるを得ないのかという大きなターニングポイントになってくるでしょう。

医学部受験の 学習環境がポイントに

では、大事なこの1年間を、どのように取り組めばいいのでしょうか。

学力に関しては、難易度が下がったとはいえ、医学部受験ですから相応の学力が求められます。まず大切なのは、苦手科目・分野の穴をなくすということです。

入試で苦手分野が多く出題されれば、たとえ偏差値75の受験生でも不合格になることはありますし、逆にその分野が得意だった場合には、偏差値55の受験生が逆転で合格するケースも医学部受験にはよくあるからです。苦手な穴が埋めれば埋まるほど、当然ですが合格の可能性は高くなります。

実は、医学部に入るまでの学力と医学部入学後の学力には相関関係がないと、多くの医学部関係者が口にしています。つまり医学部に入学後は、これまでとは違う医師になるための新たな勉強が始まり、医学部入試はそのスタートラインに立つための入試だと言えます。そういう意味では、あえて満点や高得点を狙う必要はなく、合格最低点さえクリアすればそのスタートラインに立つことができるのです。合格最低点をクリアするためにも、苦手科目や分野の克服はとても大事になってきます。また合格のためには、すべての大学で課される面接試験や大学によって課される小論文試験の対策も必要となります。

先ほど述べたように、医学部入試は医師になる人を選択する試験でもあるため、学力だけあっても合格を勝ち取ることは難しく、そこが他学部入試と一番異なる点になります。その他合格を勝ち取るための大きなポイントとして、出願先の選定が挙げられます。どこに出願するのか、またその対策をどう取るのかで、まさしく合否が分かります。本人に合った出

願先を選定するためには、様々な入試データをはじめ大学毎の最新の入試情報と共に、本人の現状を正しく把握する環境が必要であり、それらを含めた学習環境の有無が、合否を左右するといっても過言ではありません。とりわけ浪人生であれば、塾・予備校の選択が合否を分け、現役生であっても学校+α、この「+α」の塾・予備校の選択が、医学部合格に向けてとても大事な要素になってきます。

根拠のある説明ができる 塾や予備校を選択しよう

では、医学部受験のための塾や予備校は、どのようなポイントで選べばいいのでしょうか。

まずは実際に足を運んで、その塾や予備校の学習環境を確認した上で、納得のいく説明を求めることが大切です。特に重要なのは、医学部受験の学習環境があるのかどうか、そして塾や予備校が出している、医学部の合格データの根拠を確認することです。合格実績に関しても、のべ人数なのか、実数なのかも確認すべきです。可能であれば、その年度に何人在籍していて、そのうち何人が医学部に合格したのかを聞きたいでしょう。特に医学部専門予備校の場合、医学部に合格させることが使命であり、その大きな責任を担っているのですから、表に出ている合格実績の中身については必ず詳しく確認する必要があります。

指導体制についても、納得できるまで質問してください。富士学院の場合は、各科目の講師からなるチーム指導体制をとっています。なぜなら、医学部入試の特徴として、受験生（の科目ごとの能力や特性）と大学（が出題する問題）の相性のよくなものがあるからです。富士学院では、ポイントや出題傾向、難易度などを科目ごとに検討しながら、総合的に相性がいい大学を選定し、その対策を行っています。そのためには、すべての科目の講師が1つのチームとして機能する必要があります。

生徒の現状によって英語を伸ばす必要があれば、敢えて数学や他の科目の課題を減らしても英語に集中させるといった、生徒の現状に応じた視点での指導が、合格のためには必要だからです。富士学院では10数年前から、こういったチーム指導のあり方を試行錯誤しており、7〜8年前からようやくチームとして機能が定着する体制になりました。ですから、チーム指導についてのどんな細かな質問でも具体的に答えることができます。

また医学部合格を目指すためには、学力面だけではなく、面接試験等で医師になる覚悟が問われます。医学部合格だけではなく、合格後を踏まえた指導ができていのかも確かめておくべきです。富士学院では医師になるための意識づけ講座「ゼミ生自立講座」を開催し、本学院OBの医大生や医師との懇談も行っています。その他OB会も組織され、医学部入

学後の様々なサポートも行っています。

また実際にその塾や予備校に通った合格者の声や保護者の声も、塾や予備校選択にとつて、とても重要な要素になります。とりわけ保護者の方からの感謝の声には大きな意味があると思っています。ただ単に医学部に合格しただけでは、保護者の方がわざわざ感謝の声を寄せることがまずないからです。しかし、富士学院の場合には、毎年多くの保護者の方から感謝の言葉をいただいています。合格を果たせた喜びだけではなく、お子様の人間的な成長に対し感謝している声が多くあり、なかには「富士学院の1年間は神様がくれた宝物」とまで表現して下さったお母様もいます。

富士学院は予備校である前に、「きちんとした教育機関」でありたいと常に意識し行動していますが、沢山の感謝の声は、その姿勢を評価していただいたものと大変うれしく思っています。

医学部受験 富士学院

富士学院 検索

全て直営校で運営

東京御茶ノ水校: ☎0120-01-9179

東京十條校: ☎0120-02-9179

横浜校: ☎0120-04-9179

名古屋校: ☎0120-9816-33

京都校: ☎0120-05-9179

大阪校: ☎0120-06-9179

大岡校: ☎0120-9179-00

広島校: ☎0120-09-9179

福岡校: ☎0120-5251-22

鹿児島校: ☎0120-66-9179

**Q5**

現役と浪人の長所、
短所は？
何浪までOK？

A

2021年は国公立大の現役・浪人の割合が51.9%対49.1%、私立大は32.1%対67.9%。現役志向が高まっていると言われているが、こと医学部に関しては、浪人生の割合が高い。「現役生は推薦を受けられ、長期間勉強した浪人生は学力が高いが強みです。各大学とも3浪まではあまり問題にしないようです。『多浪』と言われるのは、4浪からを指すことが多いですね」(同)

2018年に発覚した不正入試問題以来、あからさまな差別はなくなり、富士学院では15浪の人も合格したそうだ。

「浪人期間が長い場合、面接で必ず、その理由を聞かれます。その時に、きちんと面接担当者が納得するような理由を述べられれば大きな問題はありません。ただし、不正ではなく多浪生に厳しい見方をする大学もあるのは事実です。大事なことは多浪になった原因部分をきちんと反省し、それを経験として次につなげていけるかどうかであり、その経験を生かせれば、そのことは逆に多浪生の長所にもなり得ます」(同)

社会人から目指す場合も同様で、なぜ仕事を辞めてまでも医師になりたいのか、その覚悟や社会人としての経験をどう生かすことができるかなどをしっかりと伝えることが大事だ。

Q6

国公立大と私立大を
併願するときの
注意点は？

A

通常、第1志望が私立大で、国公立大を併願するのは考えにくい。国公立大のほうが圧倒的に科目数が多いからだ。国公立大が第1志望の場合、どのように私立大を併願すべきか。「共通テストが終わってから、国公立大の2次試験までには約40日間あり、私立大の試験はその間に行われます。試験に慣れるという意味でも受験は意味がありますね。全落ちして本命に臨むのはメンタル的にもきついです。確実に合格できるところを1校は確保しておくことが理想です。ただし、医学部は偏差値が低いところなら受かるというほど簡単ではないので、きちんとした対策をとることが必要です」(同)

私立大は、日程さえ調整できれば何校でも受験可能。首都圏の大学が地方で会場を設ける場合もあり、受けやすい環境が整っている。「学力テストは地方会場でも、面接は本校で行うという大学もあるので注意が必要です。宿泊をともなう場合は宿や交通手段の手配など試験以外にやるが増えますし、時間や体力、精神力も費やされます。日程を組むときには無理のないスケジュールを立てましょう」(同)

Q4

大学ごとの
特色ってあるの？

A

一般的に、国公立大は研究設備が整っており、研究医の育成に力を入れているのが特徴といわれ、私立大は、より実践的で臨床医の育成に力を入れている大学が多いと言われている。大卒のカリキュラムは同じでも、どこにどれだけ力を入れるかは大学によって違うので、校風や雰囲気なども含めチェックしておきたい。医師国家試験の合格率は大学によって差があるものの「学生個人の問題も大きいので、さほど気にする必要はない」と隅川さん。外部予備校から講師を呼んで熱心に対策を行う大学もあるので、心配な人は調べておこう。

入試問題は、大学の沿革によって問題の作り方に違いが出るという。「国公立大の場合、複数の学部を持つ総合大学では、他の理系学部と共通で作成された問題に医学部の問題が加味される傾向にあります。ただし大分大や宮崎大のように、医系の単科大学から総合大学に発展したところは、医学部独自の問題を作っています。また東京医科歯科大のように、医系に特化した大学だと専門的な医学の知識が問われることが多いですね」(同)

私立大は各大学によって傾向がまったく異なり、クセのある問題も多く出される。解答形式も、マークシート式や記述式などさまざま。志望校は過去問で問題の傾向を把握することが重要だ。

必読！

これだけはおさえておこう
医学部入試

Q & A

医学部受験
富士学院
入試情報室
隅川武彦さん



開校27年、国公立を含め医学部に強く、毎年2人に1人以上を医学部合格に導いている富士学院で入試情報やデータを取りまとめている医学部入試のエキスパート。

難しいと言われる医学部受験。入試の特徴や勉強法まで、
受験生が知っておきたい情報を専門家に聞いた。

構成／石村紀子 文／柿崎明子

Q2

受験勉強はいつから始めるべき？

A

「早ければ早いほどいいというのが正直なところです。理想は中1から。なぜなら、医学部入試は難関ですが、中学時代からの基礎の上に成り立っているからです」(同)

特に数学。中学の内容を理解していないと、高校数学は歯が立たない。「中学課程が身につけていない＝高校の学習をする上での共通言語がないということです。実際、当校でも学習につまずいている生徒には中学までさかのぼって指導を行うケースがあります。理科も中学で化学、物理、生物、地学の4教科やりますよね。天体の動きなど、たとえ入試に出なくても、教養として知っていることが大切です」(同)

高2までに高校課程を終え、高3は実践的な演習に取り組むのが理想だ。

Q3

国公立大と私立大で、
試験科目はどう違う？

A

国公立大は「共通テスト」を5教科7科目(数学と理科を2科目ずつ、外国語と国語、地理歴史・公民から1科目選択)受けることが前提となる。2次試験に意識が向きがちだが、共通テストで志望校の基準点を突破しなければ2次試験には進めない。しかも通過ラインは、受験生全体の平均点よりもかなり高い。「昨年の共通テストは全体として難しく、国公立大医学部に通るギリギリラインは900点満点のうち630点で、1割下がった印象でした。例年は750点くらいなので目安は85%です。科目数が多いので早めの準備が必要です」(同)

2次試験では数学、英語と理科2科目の大学が多く、面接も課される。「理科は化学、物理、生物から2科目選択ですが、北海道大、群馬大、九州大など7大学は物理必須なので、気をつけましょう」(同)

私立大は1次で数学、英語、理科2科目、2次で面接と小論文を課されるパターンが一般的。共通テスト利用の入試形式もある。毎年科目や配点を变える大学もあるので、入試情報は必ずチェックしておこう。

Q1

医学部入試の
難易度って
どれくらい？

A

医学部は定員が少なく、成績上位層がこぞって受験する難関学部だ。「国公立大は全般的に難易度が高く、大手予備校が行う大学入学共通テスト(以下、共通テスト)と2次試験のドッキング模試で、高3の段階で偏差値65を出せないと厳しいですね。合否分布を見ると、50台でも合格している受験生はいますが、ごくわずか。過去7～8年をさかのぼっても同じ状況です」(隅川さん)

偏差値65は、模試を受けた受験生のうちのたったの6.7%。その成績上位者たちとの競争になるわけだ。一方の私立大は同模試で偏差値60が目安。残りの期間に頑張れば合格圏内に入ることも可能だ。

「ただし、模試の偏差値が高いから合格できると思ったら大間違いです。問題の形式や出題傾向は大学ごとに大きな差があるため、本人との相性が重要で、出願先を間違えると不合格になるケースもよくあります」(同)

またどの大学も必須の面接や小論文をどう攻略するかもポイントになる。医師としての資質を評価されるわけだが、評価方式や評価基準は大学ごとに異なるため、その対策も必要となる。



10校舎目の直営校舎となる横浜校を新規開校

富士学院



DATA

- 【合格実績】国公立大37人、私立大389人、省庁大学校5人
- 【対象】中学生、高校生、高卒生 【寮】寮・専用食堂あり
- 【学費例】(一例)入学金22万円 国公立177万1550円、
私立348万2600円、完全個別指導コースは別途確認、
個人指導70分1万5400円 特待生制度あり
- 【校舎】東京、横浜、名古屋、京都、大阪、岡山、広島、福岡、鹿児島に10校舎。
「東京御茶ノ水校」東京都千代田区神田淡路町2-23
菅山ビル2F・3F TEL.0120-01-9179

現在、東京や大阪を含め全国に10校舎の直営校を構え、校舎内や近くに専用食堂と寮を完備。高卒生は国公立医学部コースのほか、無選抜の私立医学部コース、国公立私立併願コースを設置。科目別学力別の少人数制クラス授業と個人指導を中心に、生徒の現状に合わせてクラス授業や個人指導の併用ができる。その他、自習室を完備した夜学習システムも充実しており、生徒に応じた様々な自学習の環境も整えられている。中高生は個人指導を中心に、自習室も完備。空いている講師には質問もできる。また希望者にはクラス授

合格は勿論、その先の良医を見据えた指導も実践

業・個人指導共にオンライン授業も可能。
毎年高い合格実績を誇り、今年度も2人に1人以上が医学部医学科に進学。国公立医学部に強いのも特徴の一つだ。また、高校や大学からの依頼で行う校内医学部入試セミナー、大学のオープンキャンパスなどで行う医学部入試対策講座や推薦合格者に行う入学前準備教育は、毎年高い評価を得ている。その他、予備校ではめずらしい医師、医大生のOB会があり、現在、医師329名を含む1171名が登録。合格後も、良医を目指す様々なサポートが続く。